

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	フォワーダーとして国際物流業界で活躍する会社の企業研究
報告者	国際経営学部国際経営学科 1年 松本慧万
調査日	2023年11月6日 13:00~16:00
調査先	株式会社 近鉄エクスプレス
担当教職員身分・氏名	国際経営学部事務室 熊谷穰
担当 CVS	高橋侑吾、稲木陵介、亀井義和喜、
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1年生6名、2年生4名
調査趣旨・目的	物流業界や近鉄エクスプレスの事業内容について理解を深める。 社員様との交流を機にキャリア形成について考える。
調査結果	<p>今回、国際物流のフォワーダーとして活躍する株式会社近鉄エクスプレス(以下、KWE という)に訪問させていただいた。</p> <p>KWE は、国際物流のフォワーディング事業を行う企業で、輸出業務の貨物集荷、必要書類の手配、税関への輸出通関業務を行い、輸入業務として現地での貨物の引き取りと輸入通関業務、最終納品先までの配送を行なっている。1948年に近畿日本鉄道株式会社に設けられた業務局観光部をはじめ、1970年に近鉄航空貨物株式会社として設立された歴史のある企業である。</p> <p>国際物流業界にはフォワーダーとキャリアの2つがある。この2つの大きな違いとして輸送機材を持っているかという点で、キャリアが自社の輸送機材を持っており、フォワーダーは自社の輸送機材を持たず、キャリアの持つ貨物のスペースを買い、出荷元から配送先までの輸送のパッケージプランの提示を行う貨物の輸送代理店の役割を担っている。キャリアが Port to Port の事業であるのに対して、フォワーダーは集荷から配送までの Door to Door の事業である。そのため、柔軟でその時に最も良い物流の提案をすることができる。企業内の職種は営業、カスタマーサービス、通関、オペレーションからなる。今回私たちがお話しした方々の多くはカスタマーサービスに所属しており、海運と空運に2つからなる。顧客への提案からキャリア、港などさまざまなところとの連絡、書類の作成までフォワーダーの業務は多岐に渡るが、多い人になるとひと月に60の顧客を請け負うこともあるという。国際物流についてあまり知識がなかったが、今回の訪問を通して私たちの生活に深く関わっていることを知った。さまざまな例をもとに国際物流が私たちの生活とどのような関わりを持っているのか説明して下さったが、その中でも空飛ぶポ</p>

テトの話が印象的だった。以前労働環境改善のために行われた港湾ストライキが起きたことにより船便での輸送が滞った際に、影響を受けたのが、ファストフードで使われるポテトだった。単価が安いので、船便の輸送が多かったポテトは、このストライキで輸送されなくなり、全世界のポテトの在庫が不足した。在庫が不足しても、顧客の需要は変わらないため、企業はポテトを空輸での輸送に切り替えた。この一連の流れを「空飛ぶポテト」と比喩的に言っているのだが、この例からもわかるように、国際物流は世界で起こる大小を問わないさまざまな問題に影響を受ける事業であることがわかる。そのため、2000年台のオイルショックに始まり、コロナウイルス、ウクライナ情勢への影響も大きく受けていた。世界で起きている事象が自分の生活とは遠いものだと感じていたが、このような国際物流の視点を通すことによって新たな気づきを得ることができた。また今回は新入社員の方とお話をする時間を設けて頂いた。就活についての話や学生時代にしておいたことがいいことなども答えてくださったのだが、特に印象に残っているのは、「後悔しないように好きなことをしていくことが大切」というお話で、将来についての不安を抱え、自分の好きな選択をしている悩んでいた私にとって、一歩踏みだすひと押しになる言葉だった。そして、フロア見学を通して見ることができた社員の方の生き生きと仕事をする姿や、新入社員の方々がとても楽しそうに仕事の話や趣味の話をする姿を見て、漠然とした卒業後の不安が和らぎ、社会人になるのが少し楽しみになった。

物流業界、近鉄エクスプレスの事業内容についての説明



社員の方々との交流



社員の方々との集合写真

